

令和8年度 第1回区政会議 事前にいただいたご意見への回答

項番	項目	ご意見	回答又は西区の考え方	回答担当課
1	令和7年度 運営方針 経営課題 1-（1）	先日、ある地域の町会活動に積極的に参加しようとしている方と話す機会があったが、やはり新参者が入っていくにはハードルが高すぎるなどのこと。 町会加入を募集してる割に元々の地の方の権力が強すぎるので、意見することもできないと。 実際に町会で活動されている方に区政会議に参加してもらい意見をいただくのはどうか？	・区政会議委員には、すでに各町会で活動されている方がいらっしゃいます。新規加入者が感じている課題等については、既存の「地域・防犯・防災」グループでの意見交換の中で、皆さまからご意見を伺います。	地域支援 担当
2	令和7年度 運営方針 経営課題 1-（1）	・アクセス数だけで判断できるのか。 ・西区内にどれほどのマンションなどの団体が存在しているか、把握していない。5団体というのが控えめな数値であったのか？これまでに区役所と接点のあったマンションであっても管理組合理事の任期が2年で絶えず入れ替わりがあり、継続して連携を持つための方策やマンション同士で情報の共有をする必要がある。 ・活動主体相互は何件、区役所・企業の連携は何件と示してほしい。	・SNSの閲覧数から、「地域活動の取り組みがどれだけの人に届いたか」を一定程度評価できると考えております。 ・毎年度、区内の約470か所の分譲型ファミリーマンションについて、マンションごとに異なる課題（ニーズ）を把握するため、各管理組合宛てにアンケートを送付しています。ご回答をいただいたマンションには、それぞれの課題（ニーズ）に応じて、「防災出前講座」「にっしー広場」「いきいき百歳体操」「地域活動の紹介」などの取組をきっかけに、人と人とのつながりが広がっていくよう支援しています。 ・令和7年度におけるは区役所と企業との連携は11件です。	地域支援 担当
3	令和7年度 運営方針 経営課題 1-（2）	防災について 地域ごとの活動に注力するとあるが、具体的には自主防災組織が行う避難所開設訓練等に、今まで以上に支援をしていくということでしょうか？全地域合同防災訓練を隔年になった経緯があまりよくわからなかったのですが。	・西区では全地域合同防災訓練を令和6年度・7年度に実施してきましたが、令和8年度からは、地域の意向や各地域の訓練の充実の観点から、全地域合同防災訓練は隔年で実施することとなりました。 ・令和8年度の各地域の防災訓練につきましては、大規模災害に備えて、災害時の避難所が迅速かつ安全に機能するよう、避難所開設訓練の実施を推進していくとともに、訓練メニューの提案、訓練手順や実施体制に関する助言など、訓練実施に向けた支援を従来より手厚く行ってまいります。	安全安心 担当
4	令和7年度 運営方針 経営課題 1-（2）	・自助・共助という言葉を簡単に用いずに、まず、矢守克也著『避難学』（東京大学出版会）を一読してほしい。ことに第4章「熱心な訓練参加者は本番でも逃げるのか」第5章「ハードルを下げた／上げた訓練」以降の各章。 昨年、区政会議委員選出の面接での質問の一つが、区全体での防災訓練への参加の有無であった。「否」と答えると、面接官全員がチエックを入れているのが見えた。この点を極めて重視していることが読み取れた。が、何やら、忠誠心を測っている質問のように受け取れた。むしろ一斉訓練の限界に気づくべき時であろう。	・大阪市では、平成27年2月1日から大阪市防災・減災条例を施行し、公助に加えて、自助・共助による防災・減災の仕組みづくりを推進しています。これは、大規模災害発生時には行政による支援が直ちに行き届かない場合も想定されることから、地域住民による迅速な避難や避難所運営などの取組が重要であるとの考えによるものです。 ・一方で、ご紹介いただいた書籍等でも示されているように、従来型の一斉に集まって実施する防災訓練については、参加者の固定化や、訓練への参加が必ずしも実際の災害時の避難行動に結び付かないといった課題があることについて、区としても認識しています。 ・そのため、防災訓練への参加そのものを目的とするのではなく、災害発生時に住民一人ひとりが適切な避難行動をとり、地域が円滑に避難所を運営できるよう、実効性のある取組を進めていくことが重要であると考えています。 ・令和8年度の各地域の防災訓練につきましては、避難所開設訓練の実施を推進するとともに、実際の災害時の行動につながる、より実践的な訓練内容となるよう努めてまいります。	安全安心 担当
5	令和7年度 運営方針 経営課題 2-（1）	安心して子育てや教育ができる環境が整っていると感じている保護者の割合が94%、教育会議員の割合が100%という結果は満足度がとても高いと感じます。 その反面、大人側の満足度が必ずしも、子どもにとっての満足度と一致するわけでないと感じています。西区の不登校児童の割合が市内でトップクラスに高いことは、子どもたちからの不満や生きづらさ、息苦しさを伝えるメッセージの一つではないかと思います。 アウトカム指標に、子どもたち自身の満足度がわかる指標も必要ではないでしょうか。 にしボイスを活用したり、不登校に関する数値や、学校のアンケート結果を指標とするなどの方法もあるかと思います。	・貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。保護者の皆様などから高い満足度をいただいている一方で、ご指摘のとおり、大人側の評価と子どもたち自身の実感が必ずしも一致するとは限らないという視点は、非常に重要であると受け止めております。不登校児童の背景にある生きづらさや息苦しさに目を向け、子どもたちの内面に寄り添った環境づくりを進めることは、西区としても必要なアプローチであると認識しております。 ・ご提案いただきました「にしボイス」の活用や各種アンケート結果の指標化といったアイデアにつきましては、子どもたちの状況や子どもたち自身の満足度をより的確に把握するための貴重なご示唆として受け止めさせていただきます。現在の成果指標のあり方や、子どもたちの声をどのように施策に反映できるか、先進事例や関係部署との連携も含め、今後の検討課題とさせていただきます。 ・今後とも、表に現れている課題への対応だけでなく、すべての子どもたちが健やかに過ごせる環境づくりに向け、どのような取り組みが効果的か検討を深めてまいります。	教育担当
		不登校児童とその家族への支援と同時に、まだ見える形で表われていない子どもたちの根本的な息苦しさを取り除くための環境作りにもぜひ目を向けていただきたいと考えております。	・まだ見える形で表れていない子どもたちの課題への対応は重要であると認識しており、ご指摘に対応する取り組みの一つとして本区として「こどもサポートネット事業」を通じて、学校を起点に子どもや家庭の状況に応じた支援につなぐ取組を進めています。 ・具体的には、学校において「こどもサポートネット」のスクリーニング等を通じて全児童生徒の状況を「見える化」することで早期に把握し、支援の必要性を整理したうえで、関係機関につなげています。 ・今後も、こどもサポートネット事業の枠組みを活用しながら、学校・関係機関との連携を強化し、早期把握・早期支援につなげるとともに、保護者の負担感や不安の軽減につながる支援を行ってまいります。	子育て支援 担当
6	令和7年度 運営方針 経営課題 2-（1）	・具体的に、たとえば、西区内の施設で授乳が行えるエリアがどれだけ増設できたなど、示すべきものがあれば、提示してほしい。アンケートには参加していないが、声をあげていない人たちもいるはずである。	・例示いただきました授乳環境の整備状況については、区として「西区内の施設で授乳エリアを何か所増設した」といった増設実績を示せる施策は、現時点では実施しておりませんが、今後は、授乳やおむつ交換が可能な場所を必要とする方が必要な情報にアクセスできるよう、大阪市が提供する「赤ちゃんの駅」等の既存情報を活用し、授乳・おむつ交換が可能な施設情報の周知に取り組むことで、区民の皆様の子育て環境の利便性向上に努めてまいります。 ・分かりやすい指標を用いて施策の成果を提示していくことは重要である一方で、本件は総合的な子育て支援施策のアウトカムを全体像として提示することを目的としているため、引き続き施策全体の取組状況を把握する指標として整理してまいります。	子育て支援 担当

令和8年度 第1回区政会議 事前にいただいたご意見への回答

項番	項目	ご意見	回答又は西区の考え方	回答担当課
7	令和7年度 運営方針 経営課題 3-(1)	・三村区長のインスタを拝見しておりましたが、投稿頻度に対して《いいね》の数が少ないなあと感じていました。西区のYouTubeも、登録者数も再生回数も西区の人口で考えたらかなり少ないなと思いました。 (他の地域のインスタやYouTubeを見たことがないので、24区の中では多い方だったらすみません。)	・西区では昨年度から、SNS、特にInstagramを活用した広報力の強化に取り組んでいます。令和7年度は、Instagramの総フォロワー数が1,503人から4,180人へと約2,600人増加し、約2.8倍となりました。 ・令和8年6月時点の西区SNS(LINE除く)のフォロワー数は10,625人で、北区(11,059人)に次いで24区中2位です。また、人口に対するフォロワー数の割合は9.14%となり、24区中1位となっています。 ・今年度はフォロワー数の増加だけでなく、「いいね」やコメントなどのインタラクション(反応)の向上も重視しています。住みます芸人「のびのびハッピーズ」を活用した間違い探しやアンケートなど、参加型の投稿を増やしているほか、投稿の最終ページに「いいね」を促す案内ページを固定掲載するなど、反応を得やすくする工夫も進めています。 ・YouTubeについては、動画編集に要する労力と視聴者数などの効果が必ずしも比例しない面があります。そのため、短く要点を伝えられるショート動画へのニーズを踏まえ、Instagramに投稿した動画の共有など、効率的・効果的な発信を進め、視聴回数や登録者数の向上につなげていきます。委員の皆様におかれましても、ぜひ西区SNSへの登録・フォローをお願いするとともに、「いいね」やシェアなどでご反応をいただけますと幸いです。	広報担当
8	令和7年度 運営方針 経営課題 3-(1)	・昨年は区政会議メンバーではなかったため、フィードバックについては、判断できない。 ・窓口業務は、外国語による対応など、以前にはなかった多くの課題と向き合っていると想像する。いたずらに、数値にこだわって、未達成であることを、卑下する必要はない	・この度は、貴重なご意見ありがとうございます。 ・区民が快適で利用しやすい区役所となるよう、引き続き、職員の窓口対応力の向上などに取り組んでまいります。	総務担当
9	令和7年度 運営方針 経営課題 全体	令和7年度の運営方針では、SNSの活用や地域活動、防災、子育て支援など、多くの取り組みが進められていることが分かりました。特に、地域活動や防災、子育て支援において、熱心に関わってくださっている地域の方々が多く、一度つながると様々な支援やコミュニティにつながる土壌が西区にはあると感じています。 一方で、現場にいる立場として少し気になったのが、アウトカム指標の設定と、声の拾い方についてです。 SNS閲覧数や参加者アンケートなど、数値としては達成されている項目が多くありますが、「情報を見たこと」と「必要な人に届いたこと」、「イベントに参加したこと」と「孤立予防につながったこと」は、必ずしも同じではないと感じています。特に子育て世代や妊娠期～産後の方は、困ってから相談につながるというより、しんどくなる前に人や地域とつながれていることがとても重要です。 また、アンケートや区政会議、イベントに参加される方は、もともと地域活動や区政に関心がある方が中心になりやすい印象があります。 西区はマンション世帯や転入者も多く、地域との接点が少ない方、子育て中で孤立しやすい方など、「参加できていない人」「声を上げられていない人」の声をどう拾うかが、今後さらに重要になるのではないのでしょうか。 地域連合の方々をはじめ、昔から地域を支えてくださっている方々の存在は非常に大きく、熱心で優しい方が多いと感じています。ただ、若い世代は同世代同士ではつながっていても、地域との接点が少なく、世代ごとに分断されているようにも感じます。 支援がないのではなく、「支援に出会えていない」「入り方が分からない」状態なのだと思います。 そのため、町会加入や地域活動への参加を呼びかけるだけではなく、子ども・本・防災・カフェ・イベントなど、“別の目的”を入りに、自然と地域とつながれる仕組みづくりがあると、若い世代も地域に入りやすくなるのではないかと思います。 特に、母子手帳交付時は、全ての妊婦さんに届く貴重なタイミングです。行政の制度紹介だけではなく、地域の民間団体や居場所、親子が気軽につながる場所などを一覧化した地域資源MAPや冊子などがあると、早い段階での孤立予防につながるのではないかと思います。 行政だけでは届きにくい部分を、地域や民間と連携しながら補い合える仕組みができると、西区らしい子育て支援につながるのではないのでしょうか。	・この間西区役所では、必要な情報を必要な区民にお届けするため、SNSを活用し日常的に動画を配信する等広報に力を注いで参りました。その結果、情報発信に一定の効果があつたと認識しております。その一方で、ご指摘の通り「参加できない人」、「声を上げられない人」にどのように情報をお届けし、また若い世代にいかに関政に参画いただくかが大きな課題と考えております。 ・ご提案いただいた「母子手帳交付時」はもとより、行政だけでは届きにくい部分を地域や民間企業とも連携しながら対応できるよう取り組んでまいります。	事業調整 担当
10	自由意見	自転車の交通ルールを守らない方をたびたびお見かけします。 ほとんどの方は様々なルールを守って生活されていると思うのですが、一部の人のせいで印象がとても悪いし怖いです。 西区としてできることがあるのか分かりませんが、子どもたちや地域の方々が以前のように安全安心に暮らせるようになったらいいと思います。	・委員ご指摘のとおり、自転車の交通ルールを守らないことにより、地域の方々が不安を感じておられる状況については、西区として重く受け止めております。 ・住民の多くは地域のルールを守って生活されている一方で、一部の交通ルール違反等により生活環境や安全安心に影響が生じていることは大きな課題と認識しています。 西区としては、子どもたちや地域の皆さまが安全安心に暮らせる環境の確保に努めていくとともに、ルールが守られる地域づくりに向け、警察や地域とも連携して、園児や小学生を対象とした交通安全教室や地域団体等への自転車マナーアップ塾など、防犯や交通マナー関する啓発活動や広報活動を進めてまいります。	安全安心 担当
11	自由意見	西区の良いところは、未就園児とその親の居場所、高齢者の居場所が豊富にあること、地域振興に力を注ぐ方が多く、週末などに様々な場所でイベントが豊富に行われていることだと思います。 しかし、子どもが就学した途端に居場所が減り、平日の放課後に子どもだけで無料で行ける居場所は公園や、図書館、子プラなどに限られています。(図書館、子プラが校区外の場合、子どもだけで行くことはできません。)いきいき事業もありますが、学校の中で学校生活の息抜きは難しく、多くの子どもたちがある程度の学年を超えたと行かなくなるのが現状です。他県では、児童館やプレーパークなど子どものための無料の居場所や遊び場が多くあり、放課後の選択肢が豊富です。就学後の子どもたちの息苦しさを取り除く環境作りという意味でも、そのような子どもたちの居場所作りにぜひ目を向けていただきたいです。また、イベントの開催はインパクトがあり、人が繋がるきっかけにもなりますが、打ち上げ花火のように一時的なものになりやすいという側面もあります。イベントの必要性を吟味し、取舍選択する、もしくは予算をスリム化して居場所支援に回すなど、華やかな非日常よりも、地味であっても日常を豊かにするような予算の使い方を希望いたします。	・子どもたちの居場所づくりについてのご意見は重要な課題として受け止めています。大阪市では、地域の子どもたちが、学校でも家庭でもない居場所を通して地域の大人と関わることで、安心感やつながりが得られ、社会性・自主性を身につけることができる、食事や学習機会を提供する場、見守りの場などの「こどもの居場所」の充足を図ることを目的に取組を進めています。 ・本区としても、区内の「こどもの居場所」の周知など、就学後の子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでまいります。	子育て支援 担当